

# ◎「金融教育を考える」第5回 小論文コンクール 募集要項

## 2008年テーマ

### 1.金融教育に関する授業や学校行事での実践報告

幼稚園や小学校、中学校、高等学校等の学校で先生方が実践されたお金や金融・経済に関係のある授業や学校行事についてご報告ください。クラスや学年単位、あるいは学校全体での取り組みやPTA・地域と連携した事例などいろいろあると思います。また、こうした授業や行事に対する児童生徒の反応や感想のほか、良かった点、今後改善すべき点などもお聞かせください。

### 2.これから取り組んでみたい金融教育

将来教職を目指す大学生からは、これから児童・生徒にどのようにお金や金融・経済について教えてみたいと考えているかお聞かせください。お金の付き合いは、社会生活を営む上で欠かせないものです。社会科、家庭科に限らず幅広い教科などで取り組めると思いますので、意欲的な提言を期待しています。

### 3.これからの時代に求められる金融教育

多重債務問題・消費者トラブルの防止・職業選択等、若者が社会で自立していくためには金融教育が必要とされています。海外でも盛んに金融教育が実施されています。また、わが国の金融・資本市場の競争力強化のためにも金融教育の充実が必要との指摘もあります。大学院生や大学教員等研究者、学校の先生方に、これからの時代に求められる金融教育についての提言をお願いします。

### 4.金融教育をさらに普及していくための提言

当委員会では、学校で金融教育に取り組んでいただくために「金融教育ガイドブック」、「金融教育プログラム」をはじめ、各種の副教材を作成し、全国の学校にお届けしています。また、民間金融機関やNPOなど多くの機関も、様々なかたちで金融教育支援策を提供しています。こうした支援策等を利用される教育関係者からみて、今後金融教育をさらに普及していくためには、何が必要なのか意見をお聞かせください。

### 5.その他

上記のテーマに限らず、お金や金融・経済に関係のある教育について、教育に携わる立場から、幅広くご意見をお寄せ下さい。

[応募資格] 幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校教師、教職課程在籍・教職を目指す大学生、大学院生、大学教員等研究者

[賞] ●特賞 1編(賞状と賞金20万円) ●優秀賞 2編(賞状と賞金5万円) ●奨励賞 5編(賞状と賞金1万円)

[締め切り] 平成20年9月30日(火)※消印有効

[発表] 12月下旬、金融広報中央委員会HP(www.shiruporuto.jp)などで発表。※入賞作品集は平成21年2月発行予定。

[審査員] 阿部信太郎(城西国際大学准教授) 宇都宮健児(弁護士) 工藤文三(国立教育政策研究所初等中等教育研究部長)  
(敬称略・五十音順) 西村隆男(横浜国立大学教授) 牧野カツコ(お茶の水女子大学名誉教授)ほか

[表彰式] 日本銀行本店内にて開催

[送付先] 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル内郵便局留  
「金融教育を考える」小論文コンクール係

[問い合わせ先] TEL.03-3212-6165(土・日・祝日を除く10時~17時)

※応募者の個人情報とは当コンクール以外の用途には使用いたしません。

「金融教育を考える」第5回 小論文コンクール 応募用紙			
選択テーマ	作品タイトル	勤務先(所属先)名 <small>ふりがな</small>	
名前(共同執筆の場合は代表者) <small>ふりがな</small>		年齢	性別 男・女
		歳	※共同執筆の場合のみ記入 代表者 含む計 <small>名で執筆</small>
勤務先(所属先)住所	〒	—	
		都道 府県	
勤務先(所属先)電話番号			
自宅住所	〒	—	
		都道 府県	
自宅電話番号			

※応募に際し下記内容に相違なければ必ず  に  を入れてください。

この作品は当コンクールのために私が執筆した未発表のものです。

事務局記入欄



## 金融教育は

# 子どもたちの「生きる力」を育てる教育です。

先生、研究者から、  
将来教員を目指す学生の方まで、  
皆さんの熱い思いをお寄せください。

## 金融教育を考える

第5回小論文コンクール

9月30日締切



www.shiruporuto.jp



共同執筆もお待ちしております。  
教員を目指す学生からの応募も期待しております。



〔主催〕金融広報中央委員会 〔後援〕金融庁、文部科学省、日本銀行

## 金融教育について、 学校での活動報告や先生方、研究者、学生 の皆さんのお考えをお寄せください。

学校教育の中で金融教育を行う必要性が取り上げられています。保護者や学校の先生方の金融教育への関心も高まっています。こうした情勢の中で、学校での取り組みが少しずつ底辺を広げ、成果を上げつつあります。

金融教育が目指すところは、「生きる力」を育てる教育です。よりよい生活と社会づくりに向けて、主体的に行動できる意思や態度を養う教育を目標としており、金融教育を通じて健全な社会人が育ち、そうした人々たちによって、「活力のある社会」が築かれることを願っています。

この「生きる力」は、学習指導要領が提唱する「自ら学び自ら

考える『生きる力』を育む教育を実践する教育であると言えます。

当コンクールにはこれまで、体験的な学習や話し合い、ゲームなどを通じて児童・生徒が金融教育に触れることで、生きた社会を知り、確かな学力を養い、将来の生き方を考える契機となっていた様子が、小論文につづられて寄せられてきました。

今年度は、こうした金融教育に対する発信がさらに広範囲からお寄せいただけますことを期待しております。

例えば、個人での応募の他に、学校やグループ

### 『金融教育ガイドブック』



学校における実践事例集で、幼稚園から高等学校までの金融教育の実践事例を紹介した学校教育関係者向け冊子です。金融教育に熱心な先生方や、金融・金融教育研究校の取り組みなど体験に基づく実践的な学習、話し合い、ゲームなどを中心として45の指導事例が収録されています。

### 『金融教育プログラム』



金融教育を積極的に取り入れることで、学習指導要領が目指す「生きる力」を育む教育に大いに役立てることが出来ます。学校における金融教育をより効果的に進めるためのプログラムが、『金融教育プログラム』社会の中で生きる力を育む授業とは』です。

### 『金融広報中央委員会』とは

金融広報中央委員会（事務局：日本銀行情報サービス局内）は、健全で合理的な家計運営のために、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力し

て、中立・公正な立場からの正確でわかりやすい「金融経済情報」の提供」と一人ひとりが賢い消費者として自立するための「金融経済学習の支援」を積極的に展開しています。

\*「知るほると」は金融広報中央委員会の愛称です。

「生きる力」を育む金融教育

## ◎金融教育の目標と4つの分野

1. 生活設計・家計管理  
……生活設計、貯蓄と運用、資金管理など

2. 経済や金融のしくみ  
……お金のはたらき、経済把握、経済政策、経済社会の諸課題など

3. 消費生活・金融トラブル防止……  
金銭感覚、金融トラブル、自立した消費者など

4. キャリア教育……  
働く意義、生きる意欲、社会への感謝・貢献など

単位等の共同執筆での応募もお待ちしております。  
また、教職課程に在籍する、または教職を目指している大生からは「これから取り組んでみたい金融教育」等についての意欲的な提言を期待しています。

当委員会刊行の「金融教育ガ

イドブック」や「金融教育プログラム」などにある指導計画を実践してみたいの反省点、改善点や生徒の反応などのレポートも歓迎します。  
金融教育のさらなる普及・推進のために、多くの方からの積極的なご応募をお待ちしております。

### 小論文を 書くにあたって

◎本文の文字量は、2000～8000字（文末に文字数を明記してください）。パソコン出力可。途中の空白マス・空白行を含む。字数が不足、超過している作品は審査対象となりませんので、ご注意ください。  
・資料（写真・図表・指導計画書等）については、文末に添付してください。ただしA4用紙10枚以内（A3用紙の場合5枚以内）の分量とし、それぞれ資料であることを明記してください。  
・横書きを基本としてください。

◎本リーフレット外面にある応募用紙に、選択テーマ、作品タイトル、（共同執筆の場合は代表者の）氏名（ふりがな）、勤務先名、年齢、性別、勤務先・自宅の住所・電話番号、共同執筆の場合は執筆者の人数を記入し、応募作品の表に添付してください。  
・応募用紙はコピー可。ホームページからダウンロードすることもできます。

・共同執筆の場合には、応募用紙とは別の用紙に、共同執筆者全員の氏名、勤務先名、勤務先・自宅の住所・電話番号を明記して、応募作品に添付してください。  
共同執筆者の過半が応募資格を満たしていなければならないものとします。

◎著書、雑誌、新聞、研究発表等からの引用は、必ず出所を明記してください。

・本文の引用箇所未尾に（※）を付し、その出所を文末、または章、節の末尾に記載してください。  
・引用が複数ある場合は（※1）（※2）のように番号をふってください。

・出所は、著者、書名、引用ページ、出版社、出版年、新聞名、日付、ホームページ名、アドレス等を必ず明記してください。

・添付資料についても出所を明らかに明記してください。  
◎作品は未発表で日本語に限ります。  
◎作品は理由を問わず返却しません。  
◎入賞作品の著作権・版権は主催者に帰属します。